

令和元年度 第2回熊本市交通事業運営審議会議事録(要旨)

1. 日 時:令和2年2月19日(水) 午後2時から
2. 場 所:熊本市交通局 3階会議室 他
3. 出席委員:4名
池上恭子委員(会長)、橋本淳也委員(副会長)、福田和歌子委員、福西江玲奈委員
(50音順)
4. 事 務 局
肝付交通事業管理者、大関次長、島田首席審議員、河本総務課長、伊藤運行管理課長、
前田総務課長補佐、他総務課及び運行管理課職員
5. 傍 聴 者:非公開のため、なし
※非公開の理由:危険箇所への立ち入りを伴うことから、安全管理上、非公開としたもの
6. 次 第
 - I 開会
 - II 議事
交通局施設等視察
(視察箇所:大江変電所、大江営業所、市電車内及び市電沿線、上熊本車両工場)
 - III 閉会
7. 議事録

大江変電所の視察	
事務局	担当職員より、変電所の役割、変電所機器構成、遠隔制御、定期点検等について説明。
委員	変電所は何年で更新が必要なのか、更新には大きな費用が掛かると思うが、どのように調達するのか。重要な設備なので、計画的に運用していくべきだと思う。
事務局	変電所の法定耐用年数は20年とされているが、日々の点検で長寿命化を図っている。また、更新費用に関しては、従来と同じく、企業債を活用し、減価償却期間に合わせて計画的に償還を行っていく予定である。
委員	市電の延伸が計画されているが、その際は変電所の増設も必要なのか。
事務局	健軍変電所で電力を供給できなければ増設も必要だが、それについては、今後、延伸計画の基本設計の中で検討を行っていく。

大江営業所の視察	
事務局	担当職員より、営業所の概要・役割、運行管理システムによる配車状況の説明及び運転士の点呼立会を実施。
委員	（点呼立会で）運転士が乗務前に「安全憲章」を毎回読みあげ、無事故継続日数も大きく掲示し、確認していることに、安全に対する意識の高さを感じた。今後も継続してほしい。

市電車内及び市電沿線の視察	
事務局	担当職員より、市電車両の状況や電停設備、沿線の歴史や現状等について説明。
委員	（電停バリアフリー化について）熊本地震や人手不足の影響が電停工事にまで及んでいるとは。早期に進められるとよいが、入札不調に終わることがあるなど、予算の確保や計画の策定などとは別の面でも課題があるとは思わなかった。
委員	路面にポールや、電車注意の舗装があるが、水道町交差点付近は交通量も多く、事故も多いのではないかな。
事務局	事故は白山交差点の方がさらに多い。そちらも路面の舗装や、車両に LED 灯を装着するなどの対策を講じている。クラクションの活用については市民からの苦情にもつながり、事故対策に難しさを感じている。
委員	クラクションでも苦情があるのか。ほかにはどのような苦情があるか。
事務局	乗務員の乗客対応についての苦情が多い。接遇については、研修等を通じてより良いものにしていきたい。なお、事故については、軌道敷内に侵入した自動車の過失割合が大きくなる傾向にあり、自動車を運転される方のためにも、周知を徹底したい。
委員	架線を支える電柱は、古いものでは大正時代からのものもあると聞いている。現代の電柱にはない良さを感じる。
事務局	電柱に関しては、60 年以上が経過しているものも多くあり、電柱の建替は交通局の課題の一つ。建替地の確保などの課題もあるが、計画的に取り組んでいきたい。

委員	市電の乗客数には沿線施設のイベントにも大きく影響されているならば、中心市街地の活性化や地域との連携も必要。
----	---

上熊本車両工場の視察	
事務局	担当職員より、車両工場の概要及び洗車場・交番検査・事故車補修作業・車検作業等の説明を実施。
委員	たくさんの作業工程があり、一部は外部に委託しているとのことであるが、路面電車事業者自体が少なく、委託できる業者も限られるのではないかと感じる。
事務局	その通り。また、業者だけでなく、交通局の技工職員の技術承継も課題である。
委員	既存の製品がない場合は、工場内で既存部品を加工して調達するなど、技術力の高さを感じた。点検についても、ここまでするのか、と感じ、なぜ市電車両が60年を超えてもなお、元気に運行できているのかがわかった。
委員	（車検中の低床電車を見学し）低床車両の座席について、デッドスペースも多く、改善はできないのかと感じている。
事務局	低床車両の座席については、多くご指摘をいただくところであるが、低床とする分、車輪を格納する場所が必要となるため、どうしてもデッドスペースができてしまう。また、現在の車両幅は、線路幅に応じたものだが、対面式の座席とした場合、向かい合う乗客の膝が当たってしまうなど課題があり、現在のシート構造となっている。

審議会を終えての会長総括	
会長	本日の視察で、普段は知ることのできない電車施設を実際に視察し、運行管理に関わる多くの課題や現状を認識することができた。運行には多くの職員・施設が関わっていることを再認識し、経営計画策定のため、貴重な経験となった。本日の各委員からの意見も参考にしつつ、経営計画の策定に取り組んでいきたい。